

今号では、夏に多い子どもの皮膚の病気をとりあげてみます。
水遊びの時期、感染の危険が高い病気は早めに治しておきたいですね。

とびひ(伝染性膿痂疹)

かきこわすと、全身に広がります

あせもや虫刺されなどをかきむしったところに、バイ菌が入りこんで炎症を起こし、かゆみのある水疱やかさぶたをつくります。かきこわすと、全身に広がります。感染力が強いため、早めに受診しましょう。

ほかの人にもうつります

この水疱はかくと破れて、液がついたところにまた水疱ができます。
ほかの人にもうつるので、完全に治るまではプールはがまんしましょう。



抗生物質入り軟膏を根気よく

抗生物質の飲み薬や軟膏で治療します。手に石けんをつけて、かさぶたや水疱をやさしく洗い、よく乾かしてから軟膏をぬります。完全に治るまで根気よく治療を続けてください。

手洗い・つめきり

とびひを全身に広げないためには、水疱をかきこわさないように、また、汚い手で湿疹や虫刺されをかきむしらないようにすることが大切です。日ごろから、手洗いをよくして、つめを短く切りましょう。治るまではシャワー浴にしましょう。

水いぼ

大きいものは、表面にツヤとくぼみ

1~6歳くらいの子供によくできる、伝染性の強い水いぼです。真ん中にくぼみあり、表面がツヤツヤしています。わきの下など、皮膚がすれ合うところによくできますが、ほとんどの場合かゆみや痛みはありません。

つぶすと白いかたまりが

水いぼをつぶすと、白くて小さい粒が出てきます。これがウイルスのかたまり。こすれたりしていぼが破れると、ウイルスが飛び散ってほかのところにつき、水いぼが増えていきます。

プールなど、治るまでは要注意

プールやお風呂など、肌がふれあう場所で感染しやすいので、治るまでは気をつけてください。アトピー性皮膚炎の子はうつりやすいので、特に注意が必要です。

放っておいても治りますが・・・

ウイルスに対し免疫ができてくるので、放っておいても自然に治りますが、長くかかるようなら受診しましょう。痛み止めの薬を貼っておき、ピンセットでつまみとります。水いぼが小さくて少ないうちに処置したほうが、よいかもしれません。

